

エンドウ久留米7, 8, 11号について

二井内清之*・太田成美**・伊藤憲作***・興津伸二・大和茂八
(園芸試験場久留米支場)

NIHUCHI, K., OTA, S., ITO, K., OKITSU, S. and YAMATO, M.
The New Varieties of Pea, Kurume No. 7, No. 8 and No. 11

1. 緒 言

園芸試験場久留米支場では、1949年以来エンドウの

* 現愛知県園芸試験場

** 現農林省園芸局

*** 現日本化薬KK

品種分類を行うとともに、耐寒、耐病性に富み栽培容易な東洋在来系品種と、品質優秀な欧州系品種との交配による新品種の育成を進め、久留米1号以下の品種を作出してきたが、1954年以降は加工性能がすぐれ、多収なグリーンピース缶詰用品種の育成にも着手して、

今度ほぼこの目的に近い品種として久留米7, 11号を育成し、同時に品質よく早生のむき実用品種として久留米8号を育成した。

これら3品種は第5表に掲げた各場所に依頼して適応性の検討を行なった。担当された各位に心からの謝意を表す。

2. 育成経過

3品種の育成経過は第1表の通りである。

第1表 新品种の育成経過

品 種	交配年	交 配	親	系 統 番 号	命 名 年
久留米7号	1954	ワールド・レコード	× 在来小剣	5-2-3-31	1959
" 8号	1955	"	× 改良雑井	1-2-1	1960
" 11号	1958	久留米3号	× 滋賀白花	8-1	1962

注) 久留米3号：ミッチェルス・トル・テレフォン×改良雑井, 1957年命名。

3. 特 性

久留米7号および11号にはアラスカ, GWを、また

久留米8号には改良雑井, 雑井を対照品種として調査した。結果は第2～5表に示した。

a) 久留米7号

アラスカに次ぐ早生種で、つぼみはアラスカの方が早い。寒さで落ちるために開花始めは同時期になる。耐寒性は中位で、北部九州では葉枯れを生ずる程度で、回復が早く問題となることは少ない。滋賀農試の調査では主枝および分枝に凍害を認めたと、第5表の通り収量への影響は認められなかった。また鳥取農試西伯分場では、越冬株数が少なく面積当りの株数が不足して減収となつた。これは単なる低温害のみではなく、砂土のため寒風と乾燥の影響が大きくて回復できずに枯死したものと思われる。

本種の特長は多収性にあり、久留米では毎年最高の収量を示し安定している。各種の土壌について行なつた調査でも、第4表のようにいずれも久留米7号がま

第2表 品 種 の 特 性

品 種	開花始 ('64)	草丈	有効分枝数			莖重	莖長	1莖内粒数	1莖内退化粒数	むき実歩留 %	1ℓ粒数	粒 径 別 割 合				塩 水 選	
			'62	'64	'65							C	L	M	S	濃度	浮粒
久留米7号	3.10	2.05	9.4	10.8	18.1	3.2	6.5	5.6	1.7	44.2	1,610	2.7	60.7	34.3	2.3	9.5	93.8
" 11号	19	1.78	8.0	9.5	11.9	3.5	7.1	6.4	1.0	45.6	1,928	0.8	32.5	57.3	9.4	12.0	96.6
アラスカ	10	2.06	5.7	10.7	2.8	6.7	5.8	1.6	41.5	1,962	2.8	15.9	61.9	19.4	"	"	95.2
G W	23	1.74	11.5	12.9	16.7	3.4	6.6	5.7	1.4	45.5	1,800	1.3	51.5	40.8	6.4	"	95.7
久留米8号	21	1.68	7.7	6.8	12.0	6.4	9.9	6.0	2.3	57.1	1,160						
改良雑井	26	2.03	6.7	8.7	13.1	8.1	10.1	6.5	1.9	57.1	940						
雑 井	30	2.01			13.2					53.2							

第3表 供試品種の収量 (上物) (kg/a)

品 種	1962		'63		'64		'65	
	初期	全期	初期	全期	初期	全期	初期	全期
久留米7号	35.9	96.5	4.8	20.2	23.6	68.2	59.2	187.9
" 11号			3.1	20.7	8.9	55.2	36.4	125.6
アラスカ	9.3	38.5	2.8	13.2			30.1	103.5
G W	40.3	87.0	2.5	16.0	29.0	56.4	91.8	122.9
L.S.D.0.05	4.6	8.7		2.5	4.9	7.0	6.3	10.9
					7.0		9.1	15.9
久留米8号	32.5	106.1	9.5	33.9	14.9	54.8	50.8	115.7
改良雑井	11.8	86.6	1.6	13.2	7.3	42.4	24.6	125.5
雑 井								

注) ** 1%レベルで有意差あり
* 5% " " "

第4表 各種土壌における収量, 草丈および分枝数

供 試 土 壌	収量 (a 当り)		草 丈		有効分枝数	
	アラスカ	久7号	アラスカ	久7号	アラスカ	久7号
砂 土	40.7	55.2	1.74	1.71	8.4	13.6
シラス砂壤土	33.4	51.3	1.64	1.75	8.6	14.0
黒色火山灰壤土	27.8	49.1	1.71	1.70	7.0	13.6
畑 壤 土	38.4	62.4	1.77	1.79	10.0	17.4
玄武岩 畑 土	36.6	62.4	1.74	1.76	9.4	14.4
干 拓 畑 土	30.2	58.7	1.75	1.67	8.1	13.5

注) 土壌は3.3m²、深さ1mのわくに詰めて供試, 4反復。

第5表 各地における収量 (kg/a)

品 種	'62		'63		'64		'65						
	熊 本・阿蘇分場	宮崎・都城分場	鳥取・西伯分場	鳥取・西伯分場	鳥取・西伯分場	鳥取・西伯分場	滋賀・瀬田試験地	鳥取・西伯分場	福岡県吉井町	川内市	鹿児島・高知	鹿児島・高知	
久留米7号	96.4	91.5	93.1	18.8	19.0	25.3	102.0	107.1	21.0	157.5	108.2	52.8	59.2
" 11号				16.0	16.8	29.4	68.0	115.7	45.3	156.9	103.1	61.0	50.9
アラスカ	71.9	84.7	59.2	4.6	2.9				26.7	129.8	71.1	50.2	
G W	77.4	76.9	51.7	41.0	19.4	34.0	82.0	96.1	37.6	154.5	103.7	60.3	78.8
久留米8号													
改良雑井													
雑 井													

注) 福岡県吉井町ならびに川内市の分は農家への委託試験。

きつていた。

粒はL級が60%を越しやや大きい。欧州系の血を引いて軽いので、加工の際1級品の塩水選はボーメ9.4～11.0で行う。多少若採りにしないと過熟になりやすい傾向がある。

b) 久留米11号

本種の最大特長は、粒が濃緑を呈し加工性能がきわめてすぐれていることで、普通硫酸銅で緑色を定着するほかに色素を添加するが、本種は色素の添加を必要としない。粒の大きさもM級が57.3%とアラスカに次いで小さい。また1莢内粒数が多く、退化粒が少なく、莢はやや細長く粒詰りはきわめて良い。粒の品質は東洋在来系の血が濃く、塩水選はアラスカ、GWと同様に行う。莢も濃緑なので収穫適期の判定には注意が必要である。

耐寒性は久留米7号よりまさり、久留米では寒害を生じない。滋賀農試では主枝にやや凍害を認めている。収量は久留米7号には及ばないが、対照品種と同等かやや多い。小粒種としてはやや晩生である。

c) 久留米8号

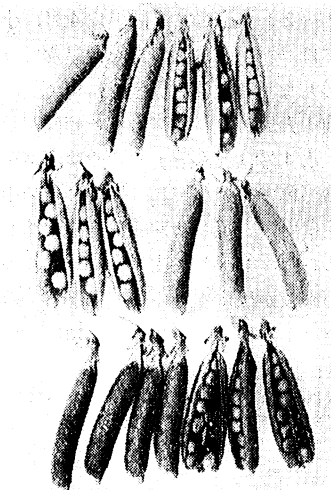
本種の特長は、早生であることならびに品質のすぐれていることの2点で、対照品種に比し粒は多少小さいが、開花始めて1週間程度早く、初期収量、総収量共に多い。耐寒性はやや劣り、久留米では主枝に寒害をうけることがある。しかし鹿児島および高知では影響が少なく、多収性を発揮している。

4. 結 言

久留米7号は、これまで収量の不安定さになやまされてきたアラスカの栽培地帯一福岡、佐賀、熊本の各県に普及しつつあり、一方久留米11号は本年より大量

採種に移る段階である。久留米8号は各地で栽培されてきているが、未だまとまった産地はできていない。さらに適地の検討を行なつて普及を計りたい。

第1図 グリンピース用品種



上：GW

中：久留米7号

下：久留米11号

第2図 久留米8号

